



「明治の地形図に現在の地名や施設を入れた図」 作図 ; C. Tanaka 2014, 10

明治の地図からは、地形がはっきりと読み取れます。音羽通りは台地に挟まれた谷間にあります。お茶の水女子大学（「陸軍病馬厩分厩」跡地）は台地の上にあると読み取れます。茗荷谷もまさに「谷」であることがわかります。「久堅町」「同心町」「小日向茗荷谷町」などの古い地名も見られ、お寺の門前が賑わっていたのも読み取れます。台地よりも低地に民家が集中しているのは、生活用水（井戸水や湧水）を得やすかったからでしょう。もちろん丸ノ内線はまだありません。

注意しないといけないのは、当時の測量が、現在の航空測量ほど精度が良くなく、等高線も必ずしも正確ではないことです。更に、当時の地形図はすべて単色印刷（モノクロ）なので、等高線をたどるのはなかなか大変です。そもそも明治の地形図は、そう簡単には入手できませんね。

自分が勤務する学校が街の中にある場合、明治の地形図がなくても、どうしたら正確な地形を知ることができるのでしょうか？その方法があります。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)

* 3 ページ目に、明治地形図の大きな画像を載せています。

